
兎と虎

白兎 成

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兎と虎

【Nコード】

N5836P

【作者名】

白兎 成

【あらすじ】

兎と虎の小さな約束とは…？

「ねえ、暑いんだけど」

夏なのにべったり引っ付いて離れない虎。

「いーだろー、少しくらい」

「何がいいんだ、暑いって言ってるの」

引っぺがして、そつぽを向く。

「死んじゃうの？」

後ろから泣きそうな小さな声が聞こえて焦る。

「は？」

別に病気でもないし、自殺する予定もない…何処から出てきたんだ、その話。

「兎って寂しいと死んじゃうんだ」

「…」

どこかで聞いたことのある話。

『兎はさびしいと死ぬ』

実際それは都市伝説的なもので、根拠は無い。

あえて言うなら、兎はストレスに弱くて、環境の変化などで死んでしまう…っていうことらしい。

「だから、僕が兎の側にずーっといるの」

そんなこと、5歳の弟分に言う話ではないだろう。

自分の為にこんな一生懸命になる姿は正直可愛い。

「しょうがないなあ…」

小さいから、ずっと何て事が言えるのだ。

姉たちやませた同級生たちを見ているとそう思った。

だけど、隣にいる虎は純粹で、一生懸命で、何も知らない。だか

ら、可愛い。

ほんとはいけないんだけど。

冷房のスイッチをonにして、虎を抱きしめた。

「虎が側にいてくれるんでしょう？」

パチパチと目を瞬かせた様子からして、急なことで驚いてたらしい。

でも、すぐにキラキラした笑顔で、

「そうだよ、兎とずーっと一緒にいるんだ」

私に抱きついた。

きっと、虎が側にいる限りストレスちひしめで死ぬ時は来ないと思った。

（後書き）

基本短編投稿となると思います。

目指すは読んだ後にちよつとほっこりなる話です。

アドバイス、間違いがあれば教えていただけると助かります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5836p/>

兎と虎

2010年12月30日19時49分発行